

I. 総括

はじめに

2024 年度は、三段峡ビジターセンターLOUPE の本格的な運営を開始し、カフェ営業を収益の柱と位置づけるなど、事業の自立と組織の継続性確立に向けた重要な一步を踏み出した一年となりました。また、来る 2025 年の三段峡名勝指定 100 周年に向けた準備を本格的に進め、様々な活動を通じて三段峡の魅力と価値の発信に努めました。

主要な活動報告

1. LOUPE 運営と観光振興

LOUPE は 4 月 6 日にオープンし、水・木曜日を定休日として 12 月上旬までカフェと展示の営業を定着させました。カフェでは、宇治園製茶の協力を得て日本茶メニューを取り入れ、見浦牛セイロやコーヒー、プリンなども提供しました。アロヒフィッシュスタジオの協力で水槽設備を一新し、魚種別の展示を充実させました。企画展示も実施し、オオサンショウウオの生態を解説する展示を行いました。広島県観光連盟と連携し、インバウンド観光誘致を目指した観光プロダクト開発に取り組み、海外インフルエンサーの取材の対応などが多い年となりました。LOUPE の入口改装や展示内容の見直しを進め、来訪者が訪れやすい施設を目指しました。事務所機能も三段峡ホテルの改築に伴い LOUPE に移転し、冬季休業中は寒さ対策の間仕切り設置なども行いました。

2. 環境保全・研究活動

太田川流域の希少生物の調査・保護活動に継続して取り組みました。オオサンショウウオの食性調査では胃内容物からアユの食害が少ないとや、カワネズミの捕食を初確認し、夜間調査中に産卵巣穴を発見しました。ヤマセミについても、熊本県人吉市での人工巣穴の観察や太田川での採餌魚調査を実施し、サントリー愛鳥基金の助成を得て軽量化・耐久性向上させた人工巣穴の再設置を進めました。ゴギについては、イワナの保全をテーマとした映画上映会や河合幸一郎氏から研究成果を聴取し、太田川の貴重な種を守るための調査の必要性を確認しました。生物多様性保全に関わるイベントとして、「保全生態学夏の学校」を共催し、絶滅危惧種の保全活動や調査を体験する機会を提供しました。広島環境ミーティングに参加し、自然史博物館ネットワーク構築に向けた議論にも加わりました。

3. 地域連携と人材育成

安芸太田町の新規採用職員研修の受入れや、広島工業大学高校や鶴学園の生徒、教職員向けの自然体験研修や授業を実施しました。さんけん自然塾では、親子向けの川の生き物調査やシャワークライミング、キャンプなどを開催し、中高生スタッフが運営を担うなど、人材育成を進めました。広島修道大学や県立歴史大学からの学生ボランティアを受け入れ、ツアーサポートや外国人対応マニュアル作成など、幅広い活動に協力をいただきました。地域商社あきおおた主催のツアーや、NTT ドコモや無印良品とも連携し、加計高校生が企画・ガイドを行うモニターツアーや子供向けの自然体験イベントを実施しました。プロボノリーグによる支援を受け、LOUPE 増収策や三段峡プランディング戦略などの課題解決に取り組みました。マイクロソリューション社より、従業員の活動をきっかけとした社会貢献制度による寄付をいただきました。

4. 観光・体験プログラムの推進

広島県観光連盟からの助成金を得て、観光プロダクトの開発をしました。シャワークライミングやアドベンチャートレッキングの体験プログラムは観察員からも高い評価をいただきました。台湾人観光客を対象とした渓流釣りや雪景色を楽しむモニターツアーを実施し、新たな客層の獲得も目指しました。主要探勝路の清掃活動を一般参加者や高校生、流川さんけん部と協力して実施しました。また株式会社広瀬印刷の「三段峡野帖」が令和 5 年度ジャグラ作品展で経済産業大臣賞を受賞しました。